

「新・京都市産業振興ビジョン（仮称）」 施策展開の方向性について（部会案）

■社会・経済状況

- 中国をはじめとした新興国における市場の拡大と価格競争の激化
- 経済波及効果の高いクリエイティブ産業市場への期待の高まり
- 低炭素社会の実現に向けた環境・エネルギー技術の進展
- ライフスタイルの変化による伝統製品の需要低迷
- 本格的な高齢化社会を向かえる中、医療・介護・健康分野の産業の市場拡大
- 事業者の高齢化、後継者不足等により、事業承継が困難

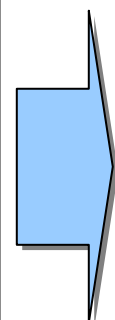
■京都市の現状

強み

- 伝統産業から先端技術産業まで、全国有数の「ものづくり都市」として、付加価値の高いものづくりが行われている。
- 京都市の産業は、全事業所の99%以上を占める中小企業が支えている。
- 日本の伝統産業の拠点である。
- 環境やライフサイエンス分野をはじめとする世界最先端の研究開発型企業が集積。
- 多様な学術研究機関の「知」が集積している。
- 「京都」という都市のブランド力と多くの地域資源がある。
- 「環境モデル都市」として低炭素社会の実現に向け積極的に取り組んでいる。

弱み

- 市内製造業の事業所数の減少率は、全国平均よりも高い。
- 市内の企業誘致においては、まとまった事業用地を確保することが難しい。
- 広域的な視点での産業振興が十分でない。
- 京都企業の魅力の発信が十分ではない。



■SWOT分析による方向性の検討

	機会	脅威
	・新興国における市場拡大 ・クリエイティブ産業への期待 ・環境・エネルギー技術の進展 ・医療・介護・健康分野の拡大	・中国等海外の価格競争の激化 ・技術・競争力の企業間格差拡大 ・伝統製品の需要低迷 ・環境規制の強化 ・事業者の高齢化、後継者不足等
強み ・有数の「ものづくり都市」 ・伝統産業の拠点 ・研究開発型企業が集積 ・学術研究機関が集積 ・都市のブランド力（山紫水明の自然や多くの文化・芸術等） ・環境モデル都市	・京都のポテンシャルとブランド力を生かした、新規成長分野への支援（クリエイティブな産業の創出、ナノ・バイオテクノロジー等を活用した環境分野・医療分野への参入促進等） 成長戦略	・高い技術力と知的資源を生かした付加価値の高いものづくり ・伝統と先進の融合（伝統産業の技術やデザイン等の活用） ・人材育成の強化 回避戦略
弱み ・伝統産業をはじめとした小規模事業所数の減少 ・事業用地の確保が困難（生産拠点の市外流出） ・広域連携の視点が弱い ・京都企業の魅力発信が不十分	改善戦略 ・市域を越えた広域連携の推進（広域的産業支援環境の整備） ・成長市場への展開を促進する企業間連携の促進 ・戦略的な販路開拓の促進	撤退戦略

■委員会での主な意見（現状認識について）

- 京都には、クリエイティブな職業に関わる幅広い人材を世界中から受け入れる土壌がある。
- 京都は都市内の職住が近接し、文化・歴史・大学の集積も厚く、面積当たりの知識量や付加価値が非常に高い。
- 京都はものづくりにとどまらず、「ものがたりづくり」ができるところが特長である。
- 京都にはブランド力があり、その一端を伝統的なものづくり産業が支えている。
- 京都の企業は、環境分野で期待される製品の要素技術を全てもっている。
- 京都の強みは、様々な分野の先端技術を持った個性的な企業とそれを支える中小企業が存在している。
- 京都には長い歴史に培われた文化、知の蓄積があり、新しいものは京都から発信されているという認識を持っている。

■委員会での主な意見（取り組むべき方向性について）

- イノベーションの源泉をもっと深く掘り下げ、大学・企業・クリエイターが連携することが重要である。
- 国全体が安いものを志向する方向に移っている。付加価値が高く安定した産業構造が望ましい。
- 国内市場が縮小する中で、海外市場への展開が不可欠となる。
- 周辺都市、関西、日本、世界との関係性を視野に入れ、京都での取組が新しいパラダイムを世界に示すようなモデルづくりが求められる。
- インフラ整備や規制緩和など企業の立地環境の整備が必要である。
- 大学の創造性を活用していくことが重要である。
- コンテンツ産業のコアは小さいが、まだ目に見えていない関連する産業を形にして新しい産業に落とし込んでいくことが重要である。
- 都市のブランディングが重要である。

■「京都市基本構想（グランドビジョン）」 21世紀の京都のまちづくりの方針を理念的に示す長期構想＜2001～2025年＞

わたしたち京都市民は、ものづくりの伝統を生かし、産業経済に活気のある華やいだまちをつくっていく。京都に地盤を置くさまざまな産業活動がさらなる活力を得るには、互いの技術にも企業文化にも厚い信頼を置き、相互にきめ細かく支えあうような産業連関都市、より具体的には高度情報社会、環境調和型社会、高齢社会に対応した京都独自の産業システムを構築していく必要がある。それは、伝統産業から先端技術産業まで、農林業から観光産業、サービス産業まで、高品質・長寿命で付加価値の高いものづくりのわざや高度な情報技術、さらには洗練されたデザインや斬新な企画力をもつシステムである。

また、リサイクル社会やマルチメディア社会に対応した環境や福祉の分野などで新しい産業を展開するとともに、大学等における研究・教育システムや対事業所サービスなど、企業の本社や研究開発機能を支援するさまざまな基盤が充実したまちづくりが求められる。ー抜粋ー

～ビジョンの対象分野～

ものづくり産業を対象とする（製造業を中心に、情報関連産業、コンテンツ産業、知識関連サービス業などものづくりの機能として関連性のある産業はすべて含む）。

■ スーパーテクノシティ構想

「革新への挑戦」と「創造的アルチザンシップ～知恵と感性を基盤とした革新の精神～」という2つの行動理念を原動力に、京都にある優れた技術、技能、研究成果、ビジネスモデル等の多様な資源の融合により、新たなものづくりが創発することを目指す。

■ 取り組むべき主要な施策

1 創業・新事業創出、第二創業への支援

- (1) 起業家養成システムの充実
- (2) ベンチャー企業等の事業展開に係る支援の充実
- (3) 第二創業を目指す企業への支援の充実
- (4) 発展段階に応じた支援体制の充実
- (5) 多様な資金調達システムの構築

2 魅力ある立地環境の整備

- (1) 産業振興拠点づくりの推進・ネットワークの形成
- (2) 産業インフラの整備
- (3) 企業立地誘致支援
- (4) 都心創生型企業誘致支援

3 新規成長分野への支援

- (1) バイオシティ構想の推進
- (2) 知的クラスター創成事業の推進
- (3) ITを活用した産業振興
- (4) 環境分野における取組支援

4 産学公の連携促進～大学発ベンチャーの育成～

- (1) 産学公連携促進のための体制整備
- (2) 地域クラスター事業の推進
- (3) 研究施設等の誘致
- (4) 公設試験研究機関の機能強化

5 伝統産業の新たな展開

■ これまでの主な取組

- 1 創業・新事業創出、第二創業への支援 → インキュベート施設の拡大、ベンチャー企業支援及び中小企業支援システムの構築
- 2 魅力ある立地環境の整備 → 桂イノベーションパーク整備、京都リサーチパークの機能強化、戦略的企業誘致の推進
- 3 新規成長分野への支援 → 京都環境ナノテククラスターの形成、バイオシティ構想の推進、コンテンツ産業の振興
- 4 産学公の連携促進 → 京都産学公連携機構の推進、産業技術研究所の整備、京都市産業科学技術振興計画の策定・推進
- 5 伝統産業の新たな展開 → 伝統産業と先端産業の融合化研究会、京都市伝統産業活性化推進条例の制定、同推進計画の策定・推進

「新・京都市産業振興ビジョン（仮称）」

■ 目指すべき姿（理念）

本ビジョンで目指す京都市の未来像は、伝統産業から最新の技術をリードする先端産業までの幅広い業種に、大企業から中小企業までの様々な規模の企業が立地する重層的な産業構造をもち、それぞれの企業が相互に刺激を与え、連関しながら発展するまちである。

そのために、京都の強みである企業のもつ優れた技術や匠の技、大学の知を駆使して、社会の変化に対応したイノベーションを先導し、付加価値の高いものづくり・サービスを提供するとともに、歴史と伝統文化、豊かな自然の中で息づいてきた京都の「美」「知」「匠」を生かして、創造的な産業を生み出すなど、新たな価値を創る都市の実現を図る。

■ 新ビジョンにおける検討の視点

中小企業の成長支援

- 販路開拓の支援
- 経営人材の育成
- 第二創業・新事業創出の促進
- 伝統産業の振興

ソフトパワーを生かした新たな価値の創造

- クリエイティブ産業を支える人材の育成
- ソフトパワーを生かしたものづくりの高度化
- 知的資源や歴史・文化資源を活用

環境・エネルギー関連産業の振興

- 環境・エネルギー分野への参入促進
- 知的クラスター創成事業の成果を生かした環境・エネルギー関連産業の育成
- 「環境モデル都市」におけるものづくり産業のブランド化

医療・介護・健康関連産業の振興

- バイオ計測・試薬産業の振興
- バイオ材料分野の振興
- 医工薬産学公連携による医療産業の振興

京都の資源を生かした産業支援環境の整備

- 産業支援機能の強化
- 産学公の連携促進
- 企業立地の促進
- 広域連携

■ 政策展開の方向性（5箇年の重点テーマ）

イノベーションの創出と連携による高付加価値のものづくり

京都企業の優れた技術や大学の知的資源を生かしてイノベーションを創出するとともに、幅広い企業の連携を促進し、社会的なニーズの高まりによって市場拡大が見込まれる分野における付加価値の高いものづくりを推進する。

京都のポテンシャルを生かした新たな価値の創造

京都がもつ「美」「知」「匠」といったソフトパワーを生かして、世界中から優れた企業・人材を集め、そこで生まれる交流を通じてクリエイティブな産業を創出する。

「グレーター京都」の視点からの広域連携

京都市内から京都府南部とこれに隣接する滋賀県・奈良県・大阪府の一部地域には、大学をはじめとする研究機関や高度な技術をもつ中堅企業の集積がみられる。このエリアを「グレーター京都」と位置付け、ものづくり産業の振興における広域連携を推進する。